



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
佐賀県ユニセフ協会通信 uniwish4号(2012年6月)

佐賀県佐賀市水ヶ江4丁目2番2号
(電話・FAX)0952-28-2077
(業務時間)月・火・木・金 10:00~15:00
E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp
<http://www.saga-unicef.jp/>



アフリカ干ばつ

【2012年5月29日 ニジェール発】

栄養不良に陥る子どもたち



© UNICEF/Niger/2012/sura Hayat
重度の栄養不良で保健センターに運び込まれたハディザちゃん（ニジェール）

干ばつや不作、食料価格の高騰にみまわれているニジェール。サヘル地域では1,500万人を超える人々が干ばつの影響に直接晒されており、重度の栄養不良に陥る5歳未満の子どもは100万人にのぼるとみられています。



サヘル地域の栄養危機

国連の専門家は、2005年、2010年、そして2012年と続く一連の干ばつにより、この影響を受けた人々は、危機的な状況に追い込まれていると訴えています。ユニセフとニジェール政府は、繰り返し起こる干ばつと食糧危機からニジェールの人々を守るためには、ニジェールの人々自身に、1日でも早く立ち直るための技術や手段を与える必要があると考えています。

2008年、ユニセフは、子どもたちを取り巻く保健、衛生そして栄養環境を改善させるために、‘（問題解決・予防の）鍵になる生活習慣（Key Family Practices - KFP）’を促進する活動をスタートさせました。人々の行動パターンを変化させる支援は、危機的な状況の中、最も弱い立場に置かれる5歳未満児の死亡率と罹患率の削減に最も大きな影響を与えます。

現在続いている栄養危機への対応として、ユニセフは重度の急性栄養不良の治療のための治療用給食センターの対応能力も強化しています。ユニセフは、ニジェール国内の44の病院で、重度の急性栄養不良や合併症に苦しむ子どもたちの治療に必要な物資と器材の約85パーセントを提供しています。また、病気の流行を防ぐため、清潔な飲料水の提供と適切な衛生設備（トイレ）の設置も進め、支援の届き難い女性と子どもたちへの支援も実施しています。

日本ユニセフ協会では、ニジェールとその周辺国を含む「アフリカの角」地域と、アフリカ中・西部に位置するサヘル地域の子どもに対してユニセフが行う緊急援助を支援する『アフリカ干ばつ緊急募金』の受付を行っています。

【資料提供：日本ユニセフ協会】

Build Back Better 被災前よりも良い状態になるまで

子どもにやさしい復興を目指して

「あらゆる自然災害で、もっとも困難な状況におかれてしまうのは子どもたち」というユニセフの緊急時対応指針に則り、日本ユニセフ協会は、被災した子どもたちへの緊急・復興支援活動を続けています。

ユニセフ本部コペンハーゲン調達事務所、ユニセフ公的資金調達部東京事務所、並びに協力団体・企業などの協力を得て、保健、教育をはじめ、専門的な知識を必要とする心理社会的支援などの重要なサービスを提供するための支援を行っています。

日本ユニセフ協会は、岩手、宮城、福島の各県ユニセフ協会と連携し、以下のような支援活動を引き続き実施していく予定です。



長谷部選手とサッカーをする子どもたち

保健・栄養

石巻市内学校給食センター3箇所、完全給食再開に向けて必要とされる食器洗浄機等の備品を供給します（今後の支出予定額：6600万円）。2011年度に岩手、宮城、福島29沿岸部被災市町村で約16万人の6ヶ月から15歳以下の子どもを対象に実施したインフルエンザワクチン接種補助事業（接種1回あたり2000円の助成金）を2012年度も継続的に支援します。対象の自治体、人数は、今後の資金状況を勘案しながら、関係者と調整を進めて行きます（今後の支出予定額：2億円）。

教育

現在、2幼稚園（南三陸町あさひ、山元町ふじ）、5保育園（陸前高田市竹駒（仮設）、気仙沼市一景島、石巻市牡鹿、井内、亘理町吉田）、1障害児ケア施設（気仙沼市マザーズ）、1学童保育施設（気仙沼市気仙沼南小）の再建工事が進んでおります。最終的には8月末を目処にすべて完成する予定です（今後の支出予定額：11億3700万円）。

宮城県内の12被災市町における新入学児童・生徒への体育着を始め、必要な学校備品の購入を支援します（今後の支出予定額：1億400万円）。



心理社会的 支援

日本生協連、福島県生協連、福島大学災害復興研究所と協力し、福島県ユニセフ協会が実施する、子ども保養プロジェクトを支援します。これは、休日・祝日・長期休暇を利用して、放射線量の低い地域に、特に未就学児と保護者を連れ出し、子どもたちが十分に外遊びし、笑顔を取り戻し、保護者自身の疲れを癒す企画で、保養先での支援として、各県ユニセフ協会と連携しながら実施します（今後の支出予定額：3900万円）。

岩手県、宮城県においては、日本プレイセラピー協会、福島県においては、福島県臨床心理士会と連携し、未就学児と保護者を対象とした心のケアサポート支援活動を継続します（今後の支出予定額：4500万円）。

子どもの 保護

J-CAPTAと実施している、子どもへの暴力防止プログラムを継続し、被災地での、保育士、教員、保護者、児童相談所職員、民生委員等への研修ワークショップを今年、来年に渡って支援します（今後の支出予定額：1200万円）。

新座子育て支援ネットワークと宮城県石巻、仙台で実施している「お父さん支援員」の養成を通した父子家庭・父親育児サポート事業を、今後岩手県内被災沿岸部でも、現地関係団体と協力して展開を支援していく予定です（今後の支出予定額：900万円）。

子どもや女性に対する暴力防止を目的としたチラシ、ポスター等、各種広報媒体の作成を支援します（今後の支出予定額：300万円）。

子どもにやさしい 復興計画

岩手県（大槌町）、宮城県（女川町、石巻市、仙台市）、福島県（相馬市）では、子ども参加によるハード面における公園整備をはじめ、地域における伝統的な遊びを取り入れた世代間交流にも繋がるようなソフト面における遊びの場環境の充実、総合的な学習の時間に取り組む子ども参加型まちづくり復興教育等、学校内外での子ども参加の取組みを支援していきます。

具体的には、福島県相馬市では、教育委員会主導で2012年度中に4回、「ふるさと相馬こども復興会議」が開催される予定で、各学校単位での、まちの復興に向けた取り組みの共有、発信の機会を応援します（今後～2016年の支出予定額：3000万円）。



写真クレジット全て：© 日本ユニセフ協会

【資料提供：日本ユニセフ協会】

東日本大震災

宮城県南三陸町あさひ幼稚園で上棟式

【2012年5月25日 宮城発】

日本ユニセフ協会は、地震および津波により被災した岩手県・宮城県・福島県の自治体からの要請を受け、保育園や幼稚園の園舎、学童等の建設や大規模な修繕の支援を行っています。



その対象園の一つ、宮城県南三陸町のあさひ幼稚園の上棟式が5月20日に行われました。あさひ幼稚園は、津波により園舎が流失。2011年6月3日から志津川小学校の教室で、10月3日には大船地区公民館を間借りして、臨時保育を行っています。

日本ユニセフ協会では、今年7月下旬の完成を目指し、高台にある町有地に新しい園舎の建設を進めています。この建物の建設には、現在、ドイツ・ブンデスリーグで活躍中の長谷部誠選手から寄せられた、著書の印税とチャリティイベントの収益金が充てられています。

園舎は、これまでに、柱、棟、梁などの基本構造が完成。この度、無事「棟上」の日を迎えることとなりました。当日は、晴れ渡る青空の下、町や園の関係者ととともに、園の子どもたちや保護者の方々、地域の方など約100名が参加し、上棟式が行

われました。南三陸町 佐藤仁町長も参加くださいました。上棟式の最後には餅まきも行われ、参加した子どもたちにも笑顔がこぼれました。



新園舎の建築を手掛ける建築家
手塚貴晴氏



上棟式の最後に行われた餅まき

あさひ幼稚園の建築を手掛けることになった世界的に有名な建築家 手塚貴晴氏は、南三陸町にある大雄寺の参道で被災した樹齢200年の杉の大木を建物の一部に使い、高台という制約のある土地の形状を最大限に活かした「木のぬくもりのある京都の清水寺のような建物」を提案。式典にて、「本日、この日を迎えられたことを大変うれしく思っています。この建物は杉の木をはるか何百年も昔にご先祖様が植えたその思いがいまここによみがえっている、生きている建物です」と思いを語りました。南三陸の土地に息づいた力強さを感じさせる杉の木があさひ幼稚園の園舎として新たに南三陸の土地に根付いていきます。

写真クレジット全て：© 日本ユニセフ協会

【資料提供：日本ユニセフ協会】

日野原重明 日本ユニセフ協会大使 百賀記念講演 『みんなでユニセフを支えよう』開催

【2012年5月22日 東京発】

昨年100歳を迎えられた日野原重明 日本ユニセフ協会大使の百賀記念講演「みんなでユニセフを支えよう」が、5月15日、東京のユニセフハウスで開催されました。



○ 日本ユニセフ協会

みなさま、よくいらっしゃいました。
今から5年前に、日本ユニセフ協会大使に就任しました。ちょうどこの場で就任の挨拶をしてから、早5年。今日は、100歳の記念講演をかねて、みなさんをお願いしたいことがたくさんあります。

昨年の10月に満100歳になり、現在は、100歳と7ヵ月です。もうすぐ101歳になろうとしています。100歳はゴールではありません。私は、若いときには腎臓炎や肺結核といった病気に苦しみました。ただただ安静にとわれ、寝ていました。発熱がひどく、ひとりでトイレにも行けないような状態のときもありました。こんな私が医者になりました。

私は、音楽が好きなのですが、小学校4年生（10歳）のときに腎臓炎にかかり、1ヵ月ほど運動ができませんでした。その時からピアノを習い始めました。中学では、モーツァルトやベートーベン、ショパンなどを弾くことができるようになりました。病気になったので、音楽に触れることができたのです。不思議な関係ですね。障害があるから、病気に出会ったから、ということがありますね。

100歳を越えた今でも童謡作家になりたいと思っています。作曲もしてみたいです。年をとるにつれて、子どもが好きになりました。また近頃は、私もfacebookに現われて私のつくった格言を紹介したりして、仲間を増やしたいと思っています。そのためには毎日ネクタイを変えなくてははいけません。夏は軽快な服装をし、冬は少し厚手のスーツを着たいと考えています。

私は子どものために人生を捧げたい

日本ユニセフ協会大使の就任式で、私はこう話しました。

「95歳からの私の人生を子どもたちのために使いたい。私は子どものために人生を捧げたい」と。

世界には、5歳の誕生日を迎えられない子どもたちがたくさんいます。9回表でもチャンスはあります。9回裏でもひっくり返せるのです。私は、子どもたちのために、子どもたちのいのち、健康、そして子どもたちの持つ権利を守るための活動に時間を使いたいと思います。



○ 日本ユニセフ協会

昨年は5回、海外へ行きました。そこにユニセフ事務所があるときには、事務所を訪ねて、ユニセフの現場をみてきました。子どもたちの権利を守る運動が足りなくて、多くの子どもが亡くなっています。生まれてもすぐに死んでしまいます。非常に大変なことがあるのです。

“いのち”の授業

3,4年前から小学校に行って、「いのち」の授業をしています。「心」はどこにあるのでしょうか？「心」は心臓にあるわけではありません。脳の中にあるんですね。2年生で最初に習う漢字に、「思」という字がありますが、この漢字の下の部分にある「心」の上にある「田」は、脳を真正面から見た様子を表しているんです。「心」は、脳の中にあるんですね。



© 日本ユニセフ協会

「いのち」はどこにあるのでしょうか？子どもたちは「いのちは心臓にある」といいます。聴診器をあてて鼓動を聞いてみると、確かにドキドキと音がします。でもそうでしょうか？心臓は「いのち」ではありません。酸素や栄養のある血液を手足や内蔵に送るポンプ、入れ物です。「いのち」ではありませんね。

「いのち」は見えない、さわれない。これとよく似ているものは何でしょう？昨日の時間は見えない、さわれないですね。明日の時間も、みえない、さわれない。でも今の時間は君たちが持っています。「いのち」というのは、「君たちが使える時間のことをいのちというのだ」と話しています。

子どもたちに、「学校に行って勉強したり、給食を食べたり、宿題をしったりするのは誰のためでしょう？」と尋ねます。子どもたちは、「自分のためだ」と答えます。いまはまだ小さいから、持っている時間を全て自分の成長のために使うことはいいんですが、大きくなったら、君たちの使える時間を誰かのために使うことが、君たちが生きていくことだと話しています。

子どもたちに誰が何を支援できるか

子どもは生まれて健やかに成長する権利を持っています。この権利を持っている子どもに、誰が何を支援できるかということなのです。それには大変な資金がいります。世界のほうぼうから予算を集めて、ユニセフは事業を展開していますが、日本は、世界で一番多く集めたお金を本部に送っています。これは、日本の素晴らしいことです。日本の個人、企業、資産を持っている方々が、何かよいことのために寄付しよう、よきことのために捧げるという人がいるからです。

しかしながら、私はアメリカに何度も行っていますが、アメリカでは、生きている間に財産の半分をよきことのために使おうという資産家のグループもありますし、96.5パーセント、遺産を寄付するという事業家もおります。

私たちは裸で生まれて裸で死ぬのです。お金を持って死ぬことはできません。私は、遺産も全てよきことのために捧げましようと言っていますが、こういう趣旨に理解をする人は少ないです。

ですが、ユニセフのような活動に理解のある方々に、その額にかかわらず、生前に遺産相続についての手続きをしておいて頂きたいと思います。日本ユニセフ協会が一生懸命になって取り組んでいることに、ファンドレイジング（寄付）があります。寄付して下さる方が一人でも増えることを私は切に願っております。

金額の大小を問わなくても、遺産などをユニセフのような活動に使いたいという人が、日本には、まだまだ、もっともっと多く存在すると思っています。皆さんが、色んな意味でPRして、ファンドレイジングのためにボランティアになって呼びかけてくださればと思います。皆さんが訴えれば、個人でも企業でも反応していくと私は信じています。

今日の日本ユニセフ協会大使としてのお話しをきっかけにして、喜んでファンドレイジングする人の数を増やそうではありませんか、私は日本ユニセフ協会大使として、みなさんに呼びかけます。

個人的なことも申しましたが、もしみなさんの心に触れることがあれば、直接、間接、そういう方向に日本ユニセフ協会をもっていこうと努力して下さいとお願いして、本日の講演を終わりたいと思います。

「100歳はゴールではなく関所だよ」

私は、2年前から俳句をつくり始めました。私はまだ初心者です。次の関所、次の関所と、関所をひとつひとつとわたって、いつまで生きられるか分かりませんが、これからも頑張っていきます。ご清聴ありがとうございました。

【資料提供：日本ユニセフ協会】

かつどうほうこく

- 3月1日（木） 募金贈呈式 みやき町立中原小学校
- 3月3日（土）/4日（日）ユニセフグッズの頒布&募金活動
第36回日本ハンドボールリーグ佐賀大会にて（神崎中央公園体育館）
- 3月5日（月） 募金贈呈式 上峰町立上峰小学校
- 3月9日（金） 募金贈呈式 佐賀市立城西中学校（佐賀県ユニセフ協会事務所）
- 3月11日（日）ユニセフ学習会 ワークショップ ～東日本大震災からはじまる学び～
（佐賀市アバンセ 4階第2研修室にて）
- 3月14日（水）JA佐賀県女性組織協議会「愛の募金」贈呈式（佐賀新聞社）
- 4月11日（水）イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」贈呈式（佐賀市イオン佐賀大和店）
- 4月22日（日）ユニセフパネル展 第27回花みずき茶会にて
（佐賀市金立山いこいの広場）
- 5月3日（木） 第109回有田陶器市
ユニセフ募金活動&グッズ頒布
今右衛門古陶磁美術館前にて（有田町赤絵町）
- 5月11日（金）イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」
（佐賀市イオン佐賀大和店）
- 5月20日（日）立正校成会唐津教会 青年の日チャリティーフェスティバル
（虹の松原広場）
- 5月27日（日）第19回
ユニセフチャリティーバザー
「東日本大震災復興支援」
（佐賀玉屋デパート）
- 6月3日（日） 第28回鹿島ガタリンピック
ユニセフパネル展
募金活動、グッズ頒布
（鹿島市七浦海浜スポーツ公園）



花みずき茶会パネル展



有田陶器市募金活動

～活動詳報～



■ 3月11日（日）ユニセフ学習会
ワークショップ ～東日本大震災からはじまる学び～（佐賀市アバンセ）

①ワークショップ「3・11をふりかえる」



東日本大震災からちょうど一年。会場には32名の方のご参加がありました。この節目の日に「3・11をふりかえる」ワークをして、改めて地震・津波・原発事故について皆さんの思いを出し合い、共有し、新たな気付きを得ることができました。地震発生の日午後2時46分、参加者は起立して犠牲になられた方々のご冥福を祈り黙とうをささげました。

②ワークショップ「世界からの援助」

「世界からの援助」のワークでは、東日本大震災に世界各国から寄せられた支援について話し合いました。

参加者の皆さんは、世界のほとんどの国や地域から様々な形での支援が届けられている事実を知り大変驚いていました。

「日本より貧しい国からも支援をしてもらっていることは知らなかった。」

「日本がこれまで支援をしてきている国から支援物資が届いていることに驚いた。」などの声が聞かれました。



③留学生のみなさんのお話 ～ 私が見た「東日本大震災」～



弘堂国際学園（鳥栖市）の留学生をお招きして、外国の方から見た東日本大震災についてのお話をさせていただきました。

母国で過去に起きた大地震の経験、日本への激励メッセージ、そして復興支援のために力になりたいというお気持ちなど、貴重なお話が聞けて、大変勇気づけられました。「原発事故の後、日本に留学することに対して、とまどいはありませんでしたか？」という参加者からの問いかけには、「原発事故のことは知ってい

ましたが、生活に大きな支障はないということが確認できたので、問題ありませんでした。実際日本に来てからも、大きな問題はないので、大丈夫だと思っています。」「日本が大変な時期だからこそ、ここで勉強したい、自分も何かお手伝いをしたい、という気持ちで来ました。」という心強い答えが返ってきました。



多くのお客様で大盛況！



汗を流し声をからして頑張ったボランティアさん

5月27日、佐賀玉屋南館アーケードで、「東日本大震災復興支援バザー」を開催しました。実行委員会からのお知らせ通信のみならず、「ユニセフニュースを見て。」「ホームページを見て。」「Fitを見て。」「新聞で知ったので。」と、県内だけではなく、茨城・東京・横浜・大阪・神戸・岡山・福岡・熊本などの県外からもバザー品のご提供をいただきました。当日、会場までお持ちくださった方もいらっしゃいました。また、企業・団体の皆さまからも多くのご協力をいただき、お陰様で約850点の品物が集まりました。

バザー品をご提供くださったみなさま
お買い上げくださったみなさま
大変ありがとうございました!!

【ご協力いただいた企業・団体の皆さま】

国際ソロプチミスト佐賀西部様 佐賀県学校生協様
リコージャパン佐賀支社様 伊万里青年会議所様
武道塾様 旅館あけぼの様 みねまつ歯科様
立正佼成会佐賀教会様 佐賀玉屋デパート様

「何か、自分にできることをしたい。」と、佐賀清和高校2年生7人の皆さんをはじめ、27名のボランティアさんが参加してくださり、汗を流し、声をからして大勢のお客様を相手に大奮闘でした。お陰様で、バザーの売上は、157,577円にもなりました。全額、被災地の子どもたちのための支援にさせていただきます。

バザー品をご提供くださった多くの皆様、お買い物をしてくださったたくさんのお客様、会場をご提供くださった佐賀玉屋デパート様、そしてボランティア協力をしてくださった皆様、大変ありがとうございました。

【高校生ボランティアさんの話】

◎たくさんのお客さんが来られてびっくりしました。

お客さんとのやりとりが楽しかったです。

◎今日、私たちが頑張ってお客さんに買ってもらったお金が、被災地の人たちのために役立てられるので嬉しいです。

※多くの皆さま方からもたくさんの品物をご寄附いただきましたが、お名前の掲載は控えさせていただきます。



山のようなバザー品の仕分けと
値段付け



ユニセフって なあに？



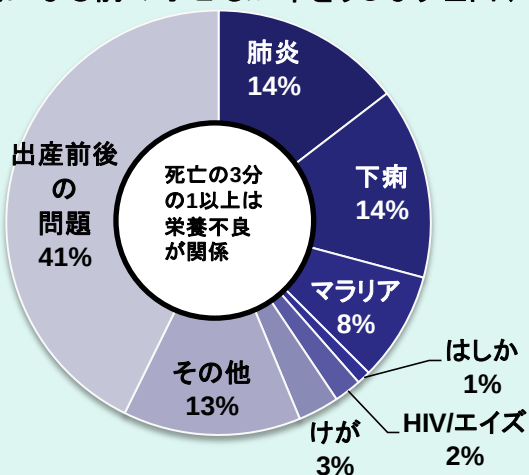
ユニセフが活動する理由 ～静かな緊急事態～
5歳の誕生日をむかえられない…

現在、開発途上国と呼ばれている国々には、1年間に760万人もの子どもたちが5歳になる前に命を失っています。これは1日に約2万1,000人、4秒にひとりの割合です。新聞やテレビではあまり知らされていませんが、これは重大な事態です。ユニセフはこれを「静かな緊急事態」とよんでいます。

Q. 「どうしてそんなにたくさんの子が命をうしなってしまうんだろう？」

A. 5歳になる前の子どもが命をうしなう理由は、下の円グラフの通りです（2010年）。
円グラフを見るとわかるように、子どもが命をうしなう原因の多くは、わずかな費用で予防し、なおすことができるものです。

5歳になる前の子どもが命をうしなう理由(2010年)



@UNICEF/NYHQ2010-1269/Ramonedea

【資料提供：日本ユニセフ協会】

☆1994年、日本ユニセフ協会佐賀友の会設立当時は2秒にひとりの割合で子どものいのちがうしなわれていました。皆様のおかげで改善されていますが、これからも一人でも多くの子どものいのちがまもられますようにご支援をお願いします。

賛助会員募集中！ 日本ユニセフ協会賛助会員としてご協力ください

☆公益財団法人日本ユニセフ協会の賛助会費は、ユニセフ募金や寄付金と同様、寄付金控除の対象になります

日本ユニセフ協会賛助会員とは

日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー（政策提言）活動を担う日本ユニセフ協会を、賛助会費によって支援していただく協力方法です。賛助会員になってニュースレターや資料を入手して理解を深め、世界の子どもの状況やユニセフと日本ユニセフ協会の活動を知り、できる範囲で行動する機会にさせていただくことができます。

賛助会員の種類と期間

三種類の会員があります。

- | | | |
|-----------|--------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 一般賛助会員 | 1口 5,000円…個人の方が対象 | 有効期限はどちらも入会月から1年間で、退会のお申し出をいただくまで継続。 |
| 2. 学生賛助会員 | 1口 2,000円…学生の方が対象 | |
| 3. 団体賛助会員 | 1口 100,000円…企業、団体、有志のグループなどが対象 | |
- 期間は、1年ごとの更新。



ご支援
ありがとうございます

ボランティア循友様 母子草様 中原小学校PTA様 中原小学校児童会様
上峰小学校様 トヨタ紡織九州株式会社様 トヨタ紡織九州株式会社レッドトルネード様
大溝小学校様 JA佐賀県女性組織協議会様 佐賀ギター音楽院様 城西中学校様
国見中学校生徒会様 佐賀リハビリテーション病院様 花みずき茶会様
ボーイスカウト有田第一団様 イオンモール佐賀大和様

さが市民活動プラザ様 副島病院様 回生薬局伊万里駅前店様 大塚製薬佐賀工場様
ヘルスランチあららぎ様 有浦中学校様 佐賀新聞社労働組合様 諸富北小学校様
住友生命保険相互会社佐賀支社様 武井電機工業株式会社様 佐賀県商工会様
グランデはがくれ様 エコプラザ様 鹿島実業高校様 新栄公民館様 佐賀清和中学校様
循誘公民館様 ようどう館佐賀校様 佐賀県環境整備事業協同組合青年部様
(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構様 佐賀大学医学部基礎研究棟様 巨勢公民館様
佐賀県国際交流協会様 リフレイン様 (有)アイカワ様 春日小学校様 武道塾様
国際ソロプチミスト佐賀西部様 佐賀県学校生協様 伊万里青年会議所様 旅館あけぼの様
(株)ライフデザイン様 リコージャパン九州営業本部佐賀支社様 みねまつ歯科様
立正佼成会佐賀教会様 佐賀玉屋デパート様 祐正寺様 (2012年2月16日～5月31日)

- ★ いろいろな形でのご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。
個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきます。



ユニセフ協力のいろいろなカタチ

募金のほかにできること

- ◎日本ユニセフ協会の賛助会員になる。
(詳しくはP.10をごらんください)
- ◎写真展/講演会などのイベントに参加する。
- ◎少人数でユニセフについて学ぶ機会をつくる。(日時場所をお知らせくださればお伺いします)
- ◎ユニセフカード・グッズを利用する。

ユニセフを支援する会母子草を通して

- ◎書き損じハガキを集める。
- ◎使用済み切手を集める。
- ◎外貨を集める。
(使い残った外国通貨で世界の子どもたちを支援することができます)
- ◎使用済みインクカートリッジを集める。



の 仲間たち!

JA佐賀県女性組織協議会のみなさん



J A 県女性組織協議会(藤木智恵子会長)のみなさん

JA佐賀県女性組織協議会の皆様は昭和54年国際児童年を契機に毎年「愛の募金活動」に取り組み、以来30年以上にわたり県内各施設やユニセフへ、会員から寄せられた浄財を贈っております。

今回33回目となる「愛の募金」は、昨年8月から11月まで会員約2万人から100円ずつ浄財を募り、約200万円をユニセフをはじめ県内10カ所の福祉施設へ寄付されました。

ユニセフへは、今年も佐賀県ユニセフ協会中尾清一郎会長に寄付金約14万円を贈呈(2012年3月14日佐賀新聞社)。JA女性組織が単独で毎年このような息の長い支援をしているところは珍しいのではないかとのことです。

藤木智恵子会長は「食料にしても着るものにしても、私たちは恵まれすぎています。世界の恵まれない子どもたちのために、たった100円ではあるけれど、これからも息長く尽力したいと思っています。」と語られました。(3月14日取材：タカハラ)

これからの予定 (5月31日現在)

1. 6月22日(金) 出前授業 上峰小学校「平和について考えよう」
2. 6月26日(火) コープさが ネパール募金贈呈式 (アバンセ)
3. 6月30日(土) 「作曲家：林冬樹の世界」チャリティーコンサート (浪漫座)
4. 7月29日(日) 外国人向けユニセフ入門講座 (TOJIN茶屋 2階会議室)
5. 8月1日(水) ドリームパーク 千代田東部小学校「水とトイレと子どものいのち」
6. 8月22日(水) ドリームパーク 千代田東部小学校「水とトイレと子どものいのち」
7. 9月12日(水) ドリームパーク 千代田西部小学校「平和を考えよう」
8. 9月17日(月) さが国際ふれあいフェスタ2012 (アバンセ)

★サヘル地域の子どもたち(ユニセフ講演会を開催する予定)

詳細は後日、ホームページにてご案内いたします。

9. 9月19日(水) ドリームパーク 千代田西部小学校「平和を考えよう」
10. 10月11日(木) ~17日(水) 「子どもたちの3・11」写真展(佐賀市立図書館)
11. 10月14日(日) ユニセフのつどい(佐賀市立図書館)

★「写真展」「ユニセフのつどい」についての詳細は後日、uniwish5号にてご案内いたします。